

1. 次の文章を読んで後の設問に答えなさい。

情報過多の問題

現代は「情報過多」と言われます。情報過多というのは、別の言い方をすれば、身につかない情報ばかりが増えていくことです。知っていても、役に立たない。

手に入る情報が増えていけば、そのぶん賢くなるという⑧単純な話ではありません。

ネットを使えば、たいへんことがすぐわかる。そう思っている人もいるでしょう。でも、その「すぐわかる」点こそが、ネットの問題点です。なにか知りたいことが出てくる。それを入力して「検索」とクリックすれば、かなりの確率で「答え」が出る。

(1) 何が問題か。それは数学を教わるのと同じようなものだからです。基本的に数学は教わってはいけない学問です。歴史などは、すでに事実とされている知識をおぼえていかないと、話が進みません。ふつうの人が、自ら史実をいちいち掘り起こす必要はない。

数学の場合は事情が異なります。問題の解き方や答えを丁寧に教わると、かえって力がつきません。応用問題ができなくなるからです。

A、いくら何でもイコールの意味とか、基本的なことは人に教わらざるをえないという面はあります。実際の教育現場では、公式を教えることも仕方がないでしょう。すべての生徒に、二次方程式の公式を発見させるのは(あ) 割が折れます。

しかし、公式を丸暗記することには意味がありません。生徒の側は、公式を教わったうえで、なぜそれが成り立つのかを、最初から自分でもう一回やってみなくてはなりません。その手間が必要なのです。

現実のテストでは、公式を丸暗記しておくだけで、正解を出せる問題もあるでしょう。 B、それでテストの点数はある程度取れるかもしれませんが。

しかし、それでは考える力が身についたことにはなりません。数学の場合は、公式を導き出すまでの(2) 論理が大切で、その論理をつくるのが、考える、ということなのです。

数学ができない人の典型的な思考パターンは、「2 a マイナス a は」と聞かれて「2です」というやつです。念のために言っておきますが、正解は「a」です。

では前者が絶対に間違いかといえば、そんなことはありません。2 a から a を取れば a になる、というのは、数学とは別のルールのうえで正しいとされることもあるのです。しかし、数学のルールでは違ふ、というだけです。これがわからない子どもには、「2 a とは、 a が2つあることを簡略化して書いているんだよ」というところから丁寧に説明しなければいけない。それは少々面倒かもしれませんが、その(あ) 難い話ではない。

ところが、丁寧に説明することを怠るから、ついていけない子どもが出てくる。そこでつかえた子どもは、「算数って無茶苦茶だよ」と抵抗する。その抵抗は自然な反応ですから、それを乗り越えられるようにすればいいだけの話です。

そういう(3) 過程を経ないで、ただ「2 a マイナス a イコール a だ。つみん言わずにおぼえよ」と頭に叩き込まれたところで、数学ができるようになるわけはないというところは、おわかりでしょう。

ネットで検索すれば、「答えのようなもの」はたくさん出てきます。そうした情報があふれています。しかし、さほど意味のない知識も多いのです。

メタメッセージの怖さ

情報過多と関連して気をつけたほうがいいことがあります。それは、「メタメッセージ」の問題です。メタメッセージとは、そのメッセージ自体が(あ) 間接示してはいないけれども、結果的に受け手に伝わってしまうメッセージのことを指します。

C 私の生まれた日の新聞を見てみれば、すべてが支那事変関連のことばかりです。それはつまり、今、中国で行われている戦争以外に重要なことはいないというメタメッセージになっている。もちろん、そんな表現は紙面のどこを見ても書いてありません。中国や日本で起こっている個別の事件、事象を伝えているだけです。しかし、新聞の読者は知らず知らずのうちに、「戦争以外に(あ) 重要なことはいない」というメタメッセージを受け取ってしまうのです。

問題は、メタメッセージというものは、受け取る側が自分の頭でつくってしまうという点です。自分の頭の中でつくったものだから、「これは俺の意見だ」と思ってしまう。無意識のうちによりすりかわってしまうのです。 D、とても危ない。

「自分の意見」ならば、当然「自分」は尊重しますし、信じます。もとはとえば新聞から得たメッセージなのだけれども、そんなことには(4) 気づきもいません。

メタメッセージは、意識されないことが多いのですが、相当強く受け手に影響を与えます。ある時、週刊誌の対談に呼ばれたら最新号を渡されました。その号には「寝たきりにならない食事」という特集が載っていました。

「なんでこういう特集をするの？」
と聞くと、

「この特集、二回目なんです。やると売れるんです」

「この特集を何度もやると、読者にとってどうメタメッセージを伝えることになるか。それはたまたまは」食事に関心があれば(5) (5) ということになります。さらにいえば「自分の体の問題は、頭(意識)次第でなんとかする」ということでもあります。

医学のかん違い

体が頭(意識)次第で何とかなる、というのは、まさに今の医学界が勘違いしている点ですが、こういう考え方が知らず知らずのうちに読者の意識に(イ)刷り込まれます。

ノーベル賞を取った山中伸弥教授のiPS細胞への期待にそれがよく出ているでしょう。人間が細胞をどうにかすれば、体は何とかなる、という考え方を多くの人が疑わずに受け入れています。そういう研究にはお金も集まりやすい。

だから、「iPS細胞って安全なのか」という意見は(ロ)ほとんど聞かえてきません。

よく、「遺伝子組み換え大豆」を使った食品の安全性について心配する人がいます。私自身は、その種の食品の安全性をあまり心配していませんが、仮にあれが心配だというのであれば、iPS細胞も心配した方がいいでしょう。生物学者の福岡伸一さんは、iPS細胞とがん細胞は生物学的に見ると、よく似ている点を指摘しています。iPS細胞そのものが、がん細胞になってしまいう可能性だってあるのです。

誤解のないように言っておきますが、私も福岡さんも新しい治療法が生まれることを(エ)期待していないわけではありません。[E]、まだよくわからないブラックボックスの部分がかかなりあるから、簡単に応用へと進められるわけではない、ということなのです。

もともと細胞ですから、人間が作ったものではありません。車の部品ならば、一から自分たちで作っているのです。その成分、性質を把握できます。原料の鉄の部分で手抜きをされていたらまた別の話になりますが、基本的には全部わかっている。

しかし、動物の細胞は(カ)そうはいきません。たとえばマウスの細胞であっても、何十億年もかけてできあがったものなのです。

当然、山中教授も自身もそれは承知のほうです。応用がそんなに簡単に進むものではないことは誰よりもわかっているでしょう。

ところが、iPS細胞に関しては、(キ)否定的な意見はほとんど聞きません。それは、「体のことは頭(意識)で何とかできる」ということや、「科学が明るい未来を切り開く」といったメタメッセージが、かなり深いところまで浸透してしまっているからです。個々のメッセージではなく、こうしたメタメッセージは無意識のうちに、考える大前提になってしまっている。だから疑われにくいのです。

(養老 孟司 著『自分の壁』より)

問一、空白部A～Eに入れるのに最も適切な言葉を次から選んで番号で答えなさい。

- 1 だから 2 これが 3 たとえば 4 いかに 5 そのかわりに 6 しはしば 7 もちろん 8 しかし

問二 傍線部(カ)～(ケ)について、品詞を答えなさい。

問三 傍線部(イ)「何が問題か」、簡潔に答えなさい。

問四 傍線部(ニ)「論理」をわかりやすい言葉にいいかえなさい。

問五 傍線部(三)「過程」について、筆者は説明しています。筆者の言う「過程」とはどんなことですか。文中の言葉を使って十字以内で答えなさい。

問六 傍線部(四)の主語を答えなさい。

問七 (五) に入る文を答えなさい。

問八 傍線部(六)について「そうはいきません」とはどういうことか、簡潔に答えなさい。

問九 傍線部(七)について、どんな意見があるのか。文中のことを用いて答えなさい。

問十 (a)～(c)の漢字についてそれぞれの対義語を答えなさい。

- (a)単純 (b)直接 (c)期待

問十一 波線部(あ)～(い)の文中での意味として適当なものを選んで番号で答えなさい。

- 1 思いこまれる 2 安心 3 難しい 4 大切 5 危険である

二、カタカナ部分を漢字で書きなさい

- ① ケツエキケンサを受ける
- ② 病気のセンブク期間
- ③ 好みがカタヨツデいる
- ④ フキユウの名作
- ⑤ この作業にカカワツテキタ

三、傍線部の漢字の読みをカタカナで書きなさい。

- ① 手洗いを勵行する
- ② 危機に陥る
- ③ 検査結果を分析する
- ④ 芳しい香を放つ
- ⑤ 慢性關節リウマチの症状

四、次のことわざを完成させなさい。

- ① 三人寄れば () ()
- ② () () に水
- ③ 災い転じて () ()

作文問題

以下の題で四百字程度の文章を書きなさい

「 気持ちの切り替え方 」